

(平成24年7月中旬実施分)

『学校診断(中間評価)分析結果概要について』

伊丹市立西中学校長 豊田 實

先月、皆様に本校の教育活動、家庭教育、生徒の状況のアンケート調査にご協力いただきました。学校診断を年度途中（1学期）に実施することは、今年度後半の教育活動に生かすというねらいがあります。

なお、分析資料としたグラフは学校ホームページに掲載します。

【保護者回答】

A～Dの4段階中良い（Aよくあてはまる、Bややあてはまる：以後%値）との回答は、23項目の設問で内訳は次のとおりです。

90%以上が4項目、80～89%が7項目、70～79%が10項目、60～69%が2項目でした。総合的には本校の教育活動に対する評価は良好な回答でした。

（※他4項目は、家庭教育等に関する設問：家庭で学習する習慣がある61.0%、家族の一人としての役割を担わせている56.1%、時々学校ホームページをみている34.7%、子どもに携帯を所持させている42.7%）

【保護者回答と生徒回答の関連について】

共通して良好な回答

	生徒	・	保護者	・	教員
学校へ行くのが楽しい	81.8%		89.4%		
旅行宿泊、勤労体験等行事に満足している	91.3%		96.1%		97.1%
学習の成果を適切に評価している	81.9%		84.7%		97.1%
自分を大切にしている、他の人への思いやり	77.8%		82.2%		
社会のきまりやマナーを教わっている	84.9%		85.5%		97.1%
交通ルール、マナーを守り安全に登下校	87.3%		91.6%		



高みを目指すべき課題

	生徒	・	保護者	・	教員
先生への相談、悩みや不安についての相談	52.2%		65.7%		91.2%
家庭で勉強する習慣がある	58.6%		61.0%		
家族の一員としての（仕事）役割がある	48.4%		56.1%		

※教員は相談について心構えをしているが、生徒、保護者の回答は同等の水準に届かない状

況です。

【生徒回答から分析できること】	生徒	教員
授業はわかりやすい	62.7% (※)	97.1%
授業で気軽に質問しやすい	50.8% (※)	
1年65.7% 2年49.1%(58.6) 3年36.9%(30.7) ()は前年度同学年		

※共に学年が上がるにつれて数値は下がっています

卒業後の進路について教わっている 58.1%

3年では 83.8% であり進路指導上のカリキュラムが影響しているものと考えられます

進路について相談できる 42.8%

3年生は 52.5% であり 2学期以降値を上昇させる活動が予定されています

生徒が授業中、質問を積極的に気軽にできるよう昨年度末の改善内容とし数値目標を65%としたが、今回の調査で同じ水準になりました。但し、学習内容が高度になる3年生で経年変化6.2ポイント上昇したことは一定の成果です。しかし、2年生では9.5ポイント低くなりました。このことから生徒の質問意欲は、学習内容の難易度が影響していると考えられます。同質問における1年生65.7%の状況を維持向上させることに努めます。



教科授業における生徒の発言チャンスをどのように理解すればよいか。発言意欲を高める事前指導とは何か。指導者の減り張りのある話し方、生徒が思考を深めるのに適切な表現力も大切です。学習の形となると、生徒間のディスカッション、グループ活動、工夫した教材利用、学習知識を確かめる場面、指導者が教室内を広く動く机間指導によるアプローチ、指導者の発問に応える場面など、授業を見極めると様々な態様があります。板書等の知識伝授で授業が進行している場面、さあ、質問をどうぞという場面、問題を解く、理解を深める時の生徒がヒントを求めたい場面など、生徒個々の意欲の高まり具合を見極めることが指導者にとっての大切な資質なのです。

「気軽に発言できる」教室が創造されるには、生徒の内面理解が核となります。

【教員回答から分析できること】

教員は34名の回答でしたが、質問計28項目の大部分が90%以上の好結果(Aよくあてはまる、Bややあてはまる)の回答であり2項目を除いてすべて80%以上的好評価です。

(※100%教員全員が好結果回答項目)

- ▼基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力(改訂学習指導要領)の育成を意識して授業をしている
- ▼学校での出来事など、必要に応じて保護者にきめ細かな連絡をしている
- ▼保護者や地域の人たちへの積極的な学校(授業)公開に努めている

(※80%に届かなかった2項目)

- ▼問題行動発生時の迅速な組織的体制が整っている
- ▼仕事分担にかたよりがない

【携帯電話使用に関する日常生活への影響】

保護者回答(携帯電話を所持させている)	保護者	生徒
	3年 53.2%	61.9%
	2年 45.6%	48.5%
	1年 29.4%	32.5%

保護者回答値が生徒回答値より低いのは、一定使用上の約束や持たせる場面を制限しているのではないかと思われます。好ましくない生活への影響を配慮した現れではないでしょうか。本校でも調査などし、所持する生徒のかなりの割合でメール等のやりとりに時間を費やす毎日の生活実態が明らかになっております。これまでの集会挨拶、PTA役員会、全校集会、学校通信掲載等で特段の事情のない限り携帯所持を控えさせるよう呼びかけてまいりました。

現1年生関係の皆様には入学前から伝えていましたが、所持率がかなり低くなりました。ご協力いただきお礼申し上げます。今後、校区小学校との連携も考慮しております。

今後もご協力いただいた学校診断を生かして、保護者、地域のご協力を得ながら教育活動充実につきまして、一層向上できるよう教職員一同努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

